



# 鳥獣保護管理調査コーディネーター

橋本 幸彦

四日市大学 環境情報学部

事業内容

カモシカ保護地域通常調査（ほか）  
（活動時所属：三重県自然環境保全センター）

事業の背景

鈴鹿山地カモシカ保護地域は1983年に三重県と滋賀県の県境に位置する鈴鹿山脈の稜線部に設定された。この保護地域ではカモシカの生息状況を継続的にモニタリングするため、過去に5回の特別調査が行われ、それ以外の時期は通常調査が行われている。通常調査では目撃情報の収集や生息密度調査を実施されている。

依頼を受けて実施した内容

通常調査の調査員として目撃情報の収集や生息密度調査を実施した。さらにその後、独自により詳細なカモシカの生息状況調査を行い、論文としてまとめ、カモシカの保護管理について提言をした。



写真1 糞塊法調査の際に引いたライン

## 事業の成果

通常調査では糞塊法による生息密度推定調査を行なった。また、聞き取り調査の結果と自身の目撃情報を地図上に落とし、報告した。保護地域のコアエリアにあたる稜線部でカモシカが目撃も痕跡もなくなっており、分布の空洞化が起きていると考えられた。このため、センサーカメラの設置とライトセンサスを実施し、空洞化を確認した。保護地域全体でカモシカが減少していると考えられるので、今後、保護施策を実施していかねばならない。



写真2 発見したカモシカの糞塊



写真3 ライトセンサス 調査風景